

コンピュータウイルス・ 不正アクセスの届出状況 および相談状況

[2016年第4四半期(10月～12月)]

本レポートでは、2016年10月1日から2016年12月31日までの間にセキュリティセンターで受理した、コンピュータウイルスと不正アクセスに関する「届出」と「相談」の統計について紹介しています。

目次

1. コンピュータウイルス届出状況	- 1 -
1-1. 2016 年総括	- 1 -
1-2. ウイルス届出件数	- 2 -
1-3. 不正プログラム検出数	- 3 -
1-4. ウイルス検出数	- 4 -
1-5. 2016 年第 4 四半期の検出ウイルスの種類	- 5 -
1-6. ウイルス届出者	- 6 -
1-7. ウイルスおよび不正プログラムの検出経路	- 7 -
2. コンピュータ不正アクセス届出状況	- 8 -
2-1. 2016 年総括	- 8 -
2-2. 不正アクセス届出件数	- 9 -
2-3. 不正アクセス届出種別	- 9 -
2-4. 不正アクセス被害原因	- 10 -
2-5. 不正アクセス届出者	- 10 -
3. 情報セキュリティ安心相談窓口の相談状況	- 12 -
3-1. 2016 年総括	- 12 -
3-2. 相談件数	- 13 -
3-3. 主な手口における相談員の対応件数	- 13 -

1. コンピュータウイルス届出状況

1-1. 2016年総括

2016年に寄せられたウイルス届出件数は、前年の2,958件より516件(約17.4%)少ない2,442件となりました。

また、2016年に寄せられたウイルスの検出数は、前年の27,571個より20,091個(約72.9%)少ない7,480個、不正プログラム検出数は前年の337,736個より1,090,338個(約3.2倍)多い1,428,074個でした。

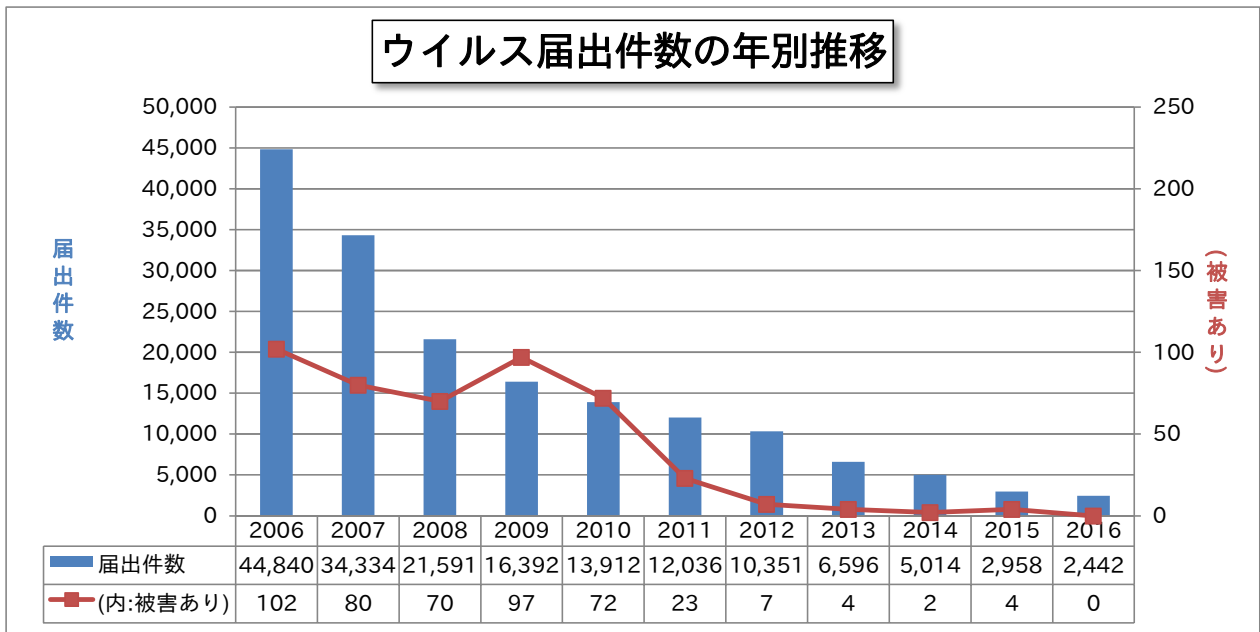


図 1-1 : ウイルス届出件数の年別推移

1-2. ウイルス届出件数

今四半期（2016年10月～12月）のウイルス届出件数は711件で、ウイルス感染被害があった届出は0件でした。

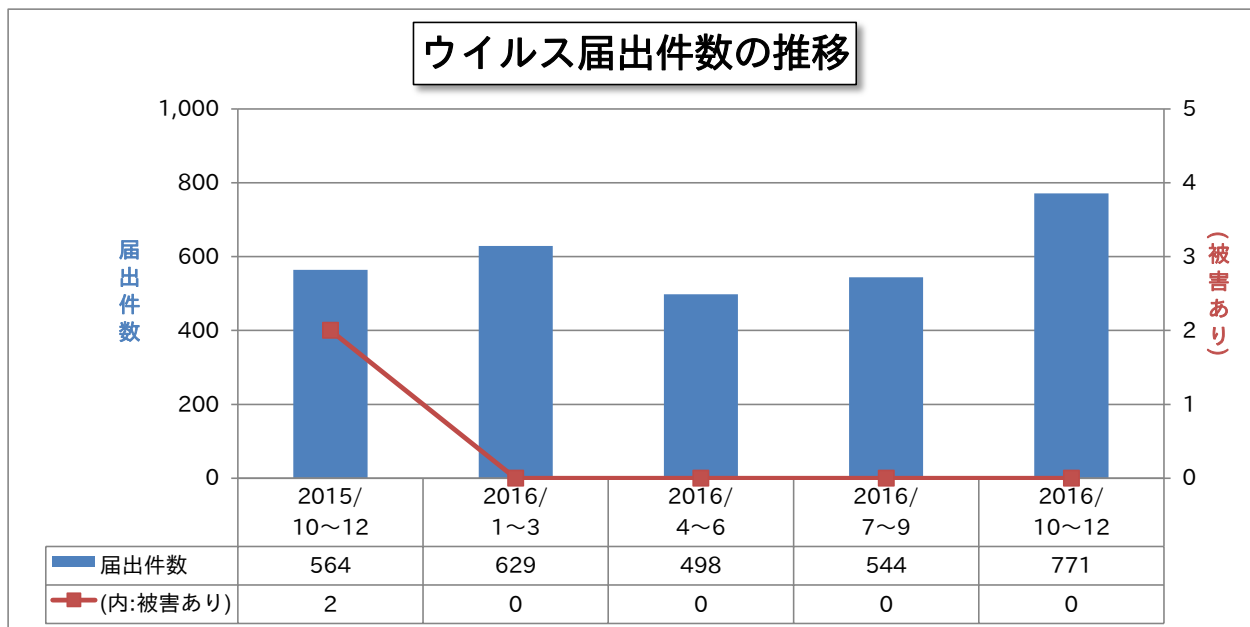


図 1-2：ウイルス届出件数の推移

1-3. 不正プログラム検出数

今四半期の不正プログラム検出数⁽¹⁾は、761,202個でした。今四半期に最も多く検出された不正プログラムはDownloaderでした。検出数は前四半期の284,726個に比べ、621,108個と約2.2倍に増加しており、全体の約81.6%を占めています。Bancosも約16.8倍増の4,101個となっています。

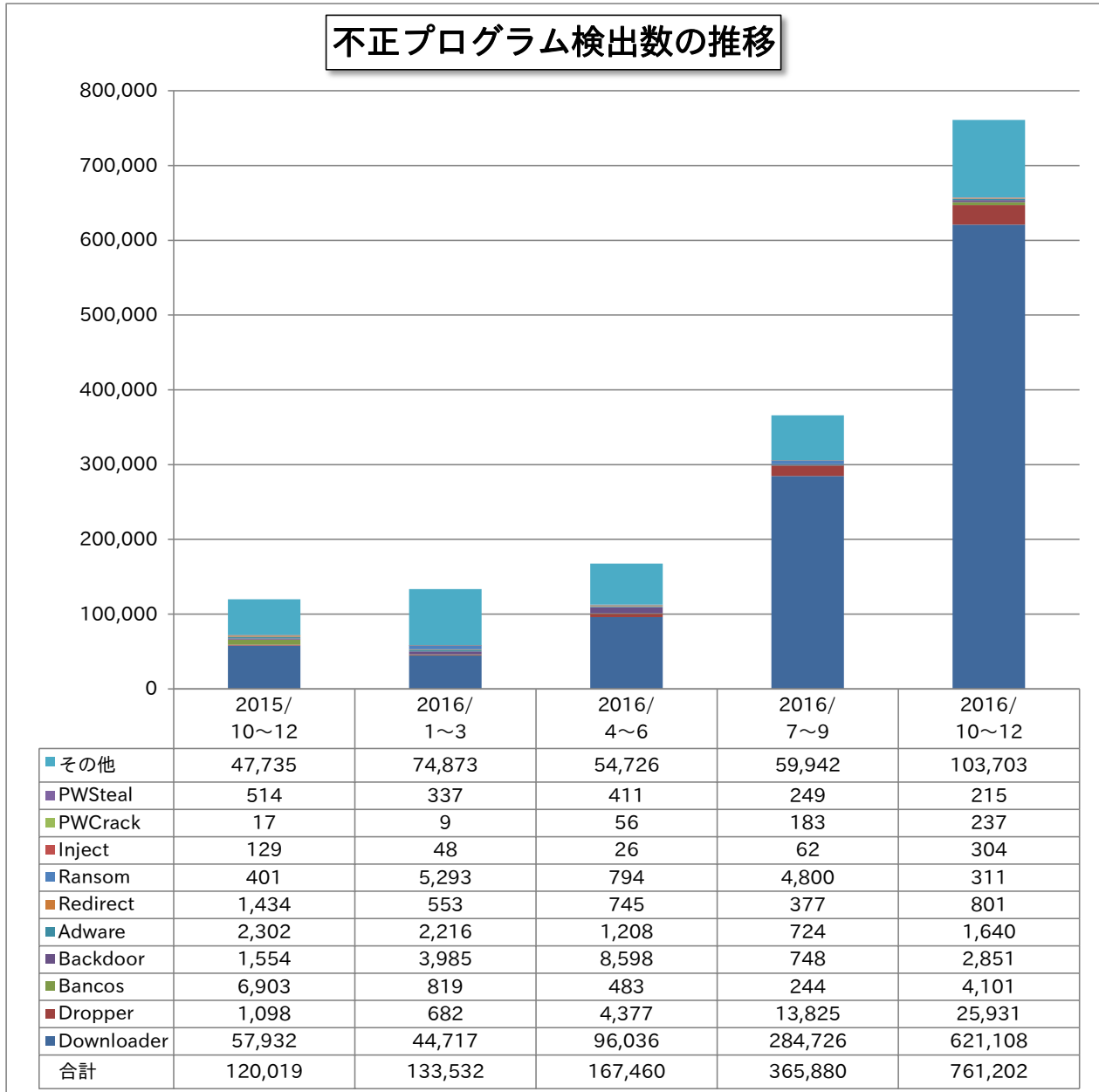


図 1-3 : 不正プログラム検出数の推移

⁽¹⁾ 不正プログラム検出数：届出された「ウイルス」および「不正プログラム」のうち、「不正プログラム」の総数を示したものの。

1-4. ウイルス検出数

今四半期のウイルス検出数^(*)は 3,078 個でした。今四半期に最も多く検出されたウイルスは W32/Fujack で、前四半期の 53 個に比べ約 14.8 倍に増加し、786 個となっています。

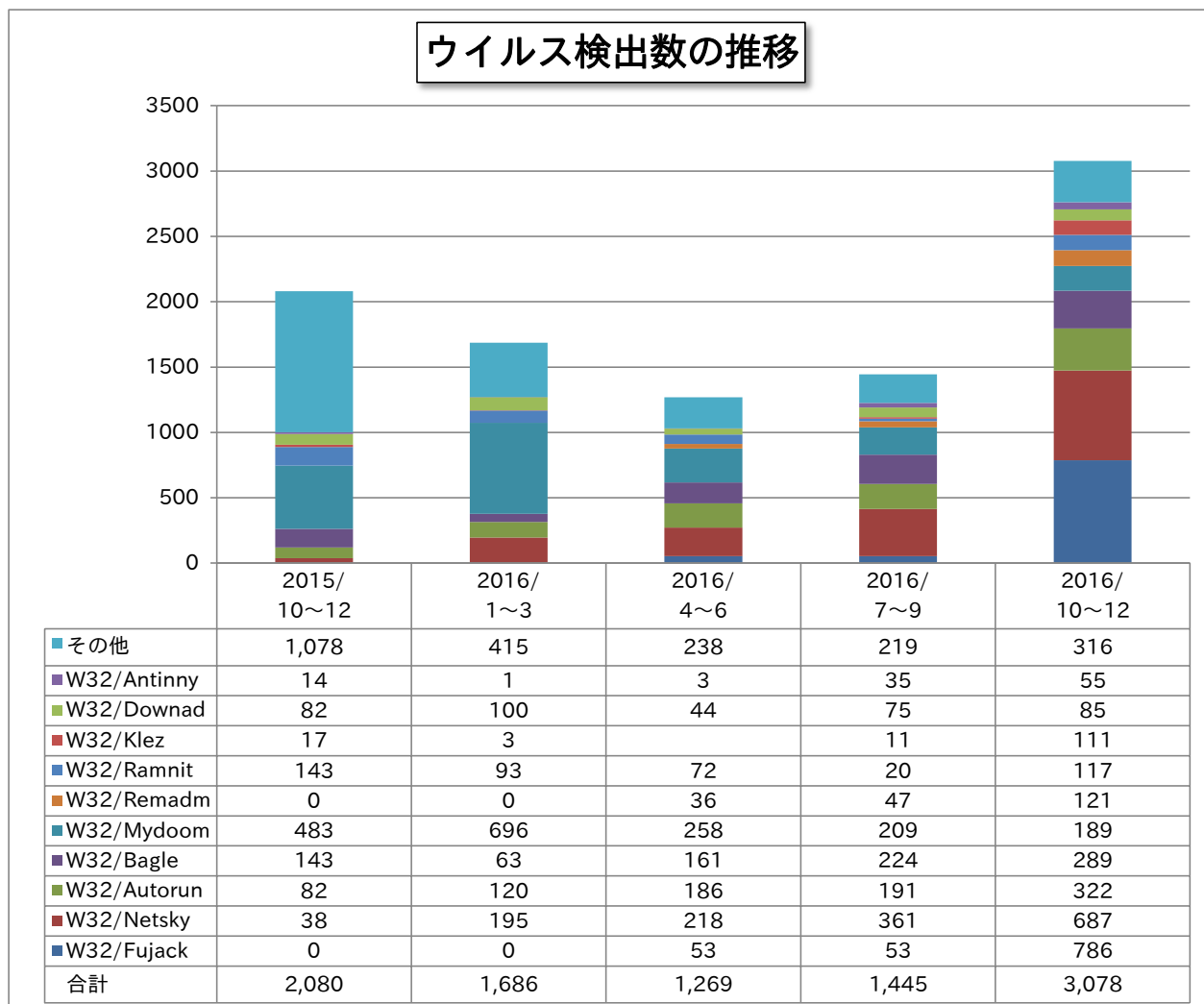


図 1-4 : ウイルス検出数の推移

^(*) ウイルス検出数：届出られた「ウイルス」および「不正プログラム」のうち、「ウイルス」の総数を示したものの。

1-5. 2016年第4四半期の検出ウイルスの種類

今四半期に届出されたウイルスの種類は 38 種類、検出数は Windows/DOS ウィルス 2,981 個、スクリプトウィルス及びマクロウィルス 59 個、携帯端末ウィルス 33 個、Macintosh および OSS (Open Source Software) /Linux・BSD を含むウィルスは 6 個でした。

表 1-1 : 2016 年第 4 四半期の検出ウイルス

i) Windows/DOS ウィルス	検出数	スクリプトウィルス	検出数
W32/Fujacks	766	なし	
W32/Netsky	687		
W32/Autorun	322	マクロウィルス	検出数
W32/Bagle	289	XM/Laroux	50
W32/Mydoom	189	WM/Wazzu	6
W32/Remadm	121	W97M/Marker	2
W32/Ramnit	117	WM/Cap	1
W32/Klez	111	小計 (4 種類)	59
W32/Downad	85		
W32/Antinny	55	ii) 携帯端末ウィルス	検出数
W32/Zhelatin	41	AndroidOS/Lotoor	32
W32/Mytob	38	AndroidOS/Rooter	1
W32/Sality	36	小計 (2 種類)	33
W32/Bacteria	20		
W32/Virut	16	iii) Macintosh	検出数
W32/Nimda	13	なし	
W32/IRCbot	13		
W32/Nuwaru	12	iv) OSS(Open Source Software)	検出数
W32/Stration	11	Linux・BSD を含む	
W32/Parite	10	Linux/lcmpquery	5
W32/Lovgate	8	Linux/Adm	1
W32/Mofksys	6	小計 (2 種類)	6
W32/Palevo	3		
W32/Sohanad	3		
W32/Redlof	2		
W32/Koobface	2		
W32/Xpaj	2		
W32/Feebs	1		
W32/Fbound	1		
W32/Sober	1		
小計 (30 種類)	2,981		

(参考)

- ・ Windows/DOS ウイルス … Windows、MS-DOS 環境下で動作するウイルス。
- ・ マクロウイルス … Microsoft Word や Microsoft Excel などのマクロ機能を悪用するウイルス。
- ・ スクリプトウイルス … 機械語への変換作業を省略して実行できるようにした簡易プログラムで記述されたウイルス。
- ・ 携帯端末ウイルス … 携帯電話やタブレットなどの環境下で動作するウイルス。

注) ウイルス名欄での各記号の用語説明は以下の通り。

記号	用語説明
W32	Windows 32 ビット環境下で動作
XM	Microsoft Excel95、97 (Excel Macro の略)
WM	Microsoft Word95、97 (Word Macro の略)
W97M	Microsoft Word97 (Word 97 Macro の略)
X97M	Microsoft Excel97 (Excel 97 Macro の略)
O97M	Microsoft Office97 (Office 97 Macro の略)
VBS	Visual Basic Script で記述
Wscript	Windows Scripting Host 環境下で動作 (VBS を除く)
AndroidOS	Android OS 環境下で動作
SymbOS	Symbian OS 環境下で動作
XF	Microsoft Excel95、97 で動作するウイルス (Excel Formula の略)

1-6. ウイルス届出者

今四半期の届出者は、過去の傾向と同じく一般法人が多く、一般法人からのウイルス届出件数は全体の約 91.8%を占めました。

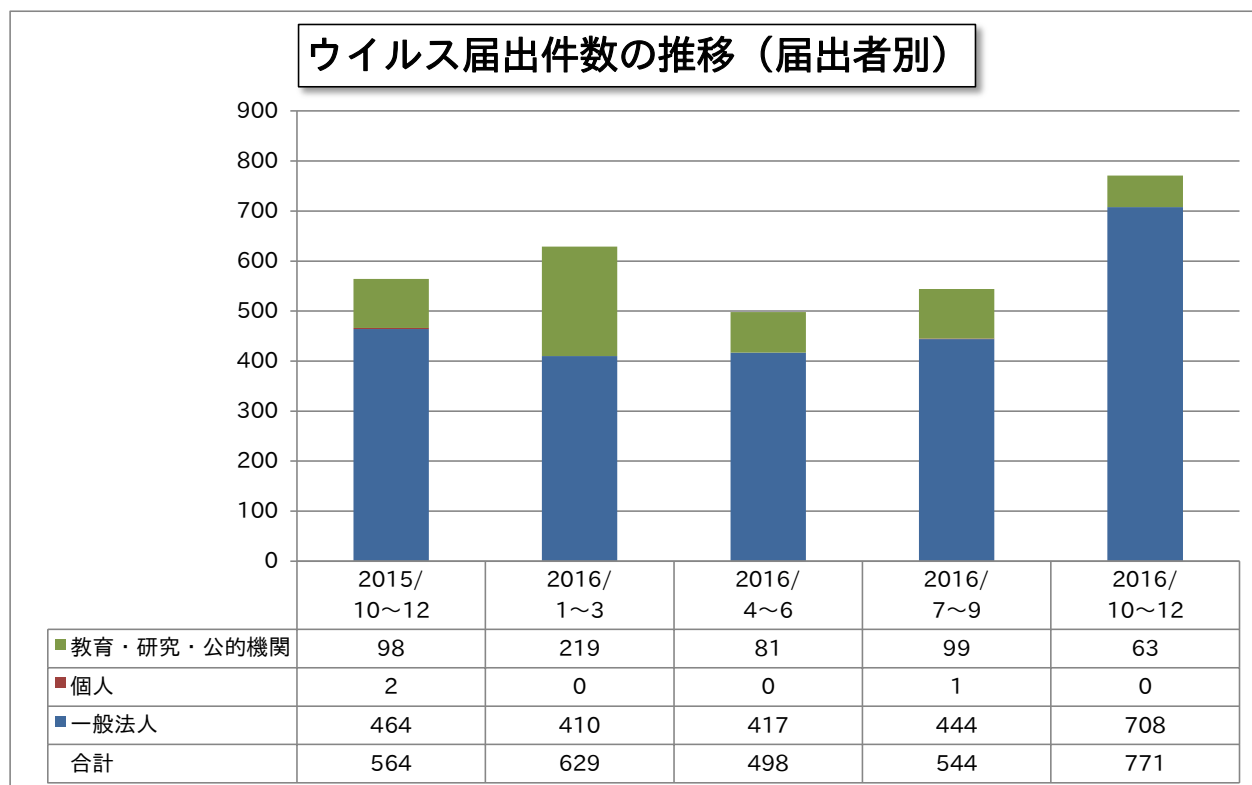


図 1-5 : ウイルス届出件数の推移 (届出者別)

1-7. ウイルスおよび不正プログラムの検出経路

今四半期のウイルスおよび不正プログラムの検出経路については、「メール」の割合が最も多く全体の約 97.6%を占めており、「ダウンロード」が、全体の約 0.7%でした。

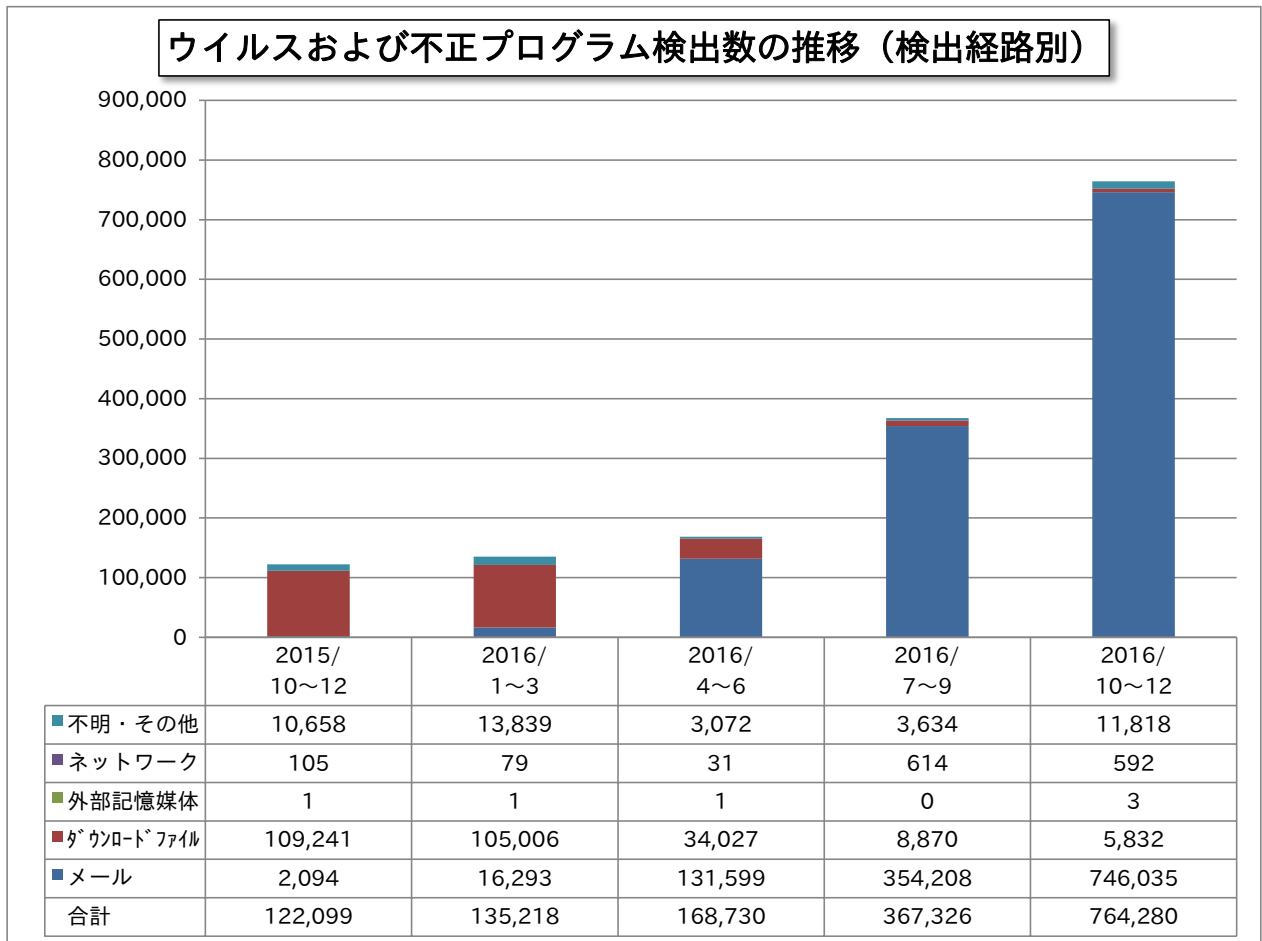


図 1-6：ウイルスおよび不正プログラム検出数の推移（検出経路別）

・コンピュータウイルスに関する届出制度について

コンピュータウイルスに関する届出制度は、経済産業省のコンピュータウイルス対策基準に基づき、平成 2 年 4 月にスタートした制度であり、コンピュータウイルスを発見したものは被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を IPA に届け出ることとされています。

IPA では、個別に届出者への対応を行っていますが、同時に受理した届出等を基に、コンピュータウイルス対策を検討しています。また受理した届出は、届出者のプライバシーを侵害することがないように配慮した上で、被害等の状況を分析し、検討結果を定期的に公表しています。

○コンピュータウイルス対策基準

平成 7 年 7 月 7 日（通商産業省告示 第 429 号）（制定）

平成 9 年 9 月 24 日（通商産業省告示 第 535 号）（改定）

平成 12 年 12 月 28 日（通商産業省告示 第 952 号）（最終改定）

○経済産業大臣が別に指定する者

平成 16 年 1 月 5 日（経済産業省告示 第 2 号）

2. コンピュータ不正アクセス届出状況

2-1. 2016年総括

2016年に寄せられた不正アクセス届出件数は、前年の110件より27件（約24.5%）少ない83件となりました。そのうち、被害のあった届出は61件で全体の約73.5%を占めています。

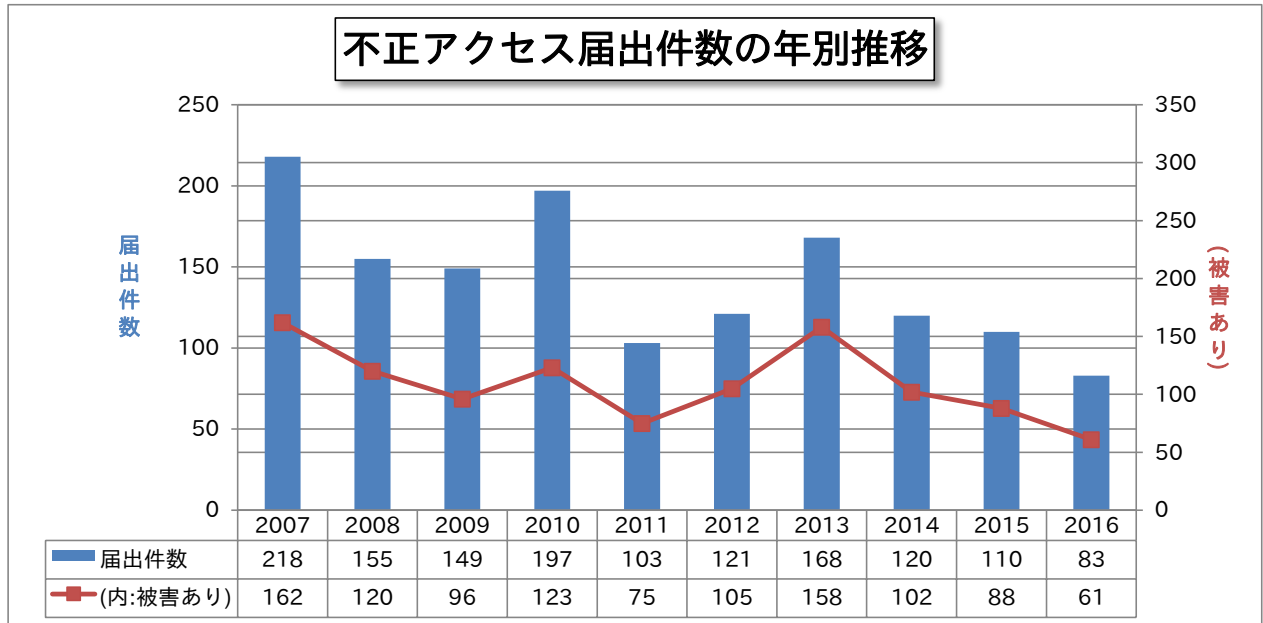


図 2-1：不正アクセス届出件数の年別推移

2-2. 不正アクセス届出件数

今四半期の届出件数は19件で、そのうち被害があったのは14件でした。

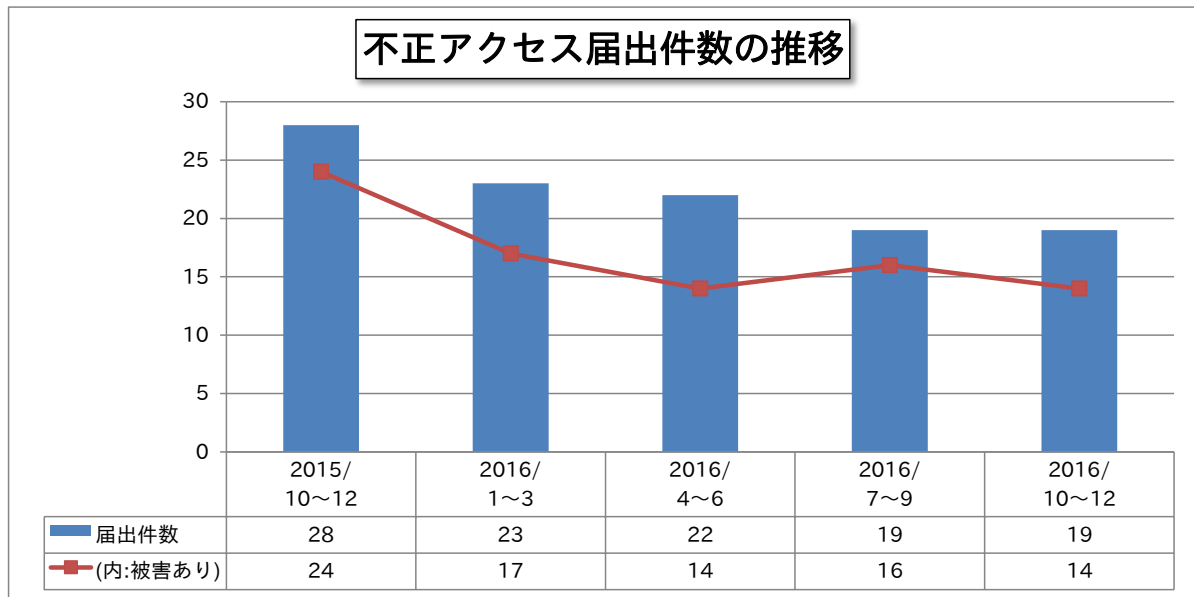


図 2-2 : 不正アクセス届出件数の推移

2-3. 不正アクセス届出種別

届出の種別としては「アクセス形跡（未遂）」が5件、「なりすまし」が4件、「侵入」が2件、「その他（被害あり）」が6件等でした。

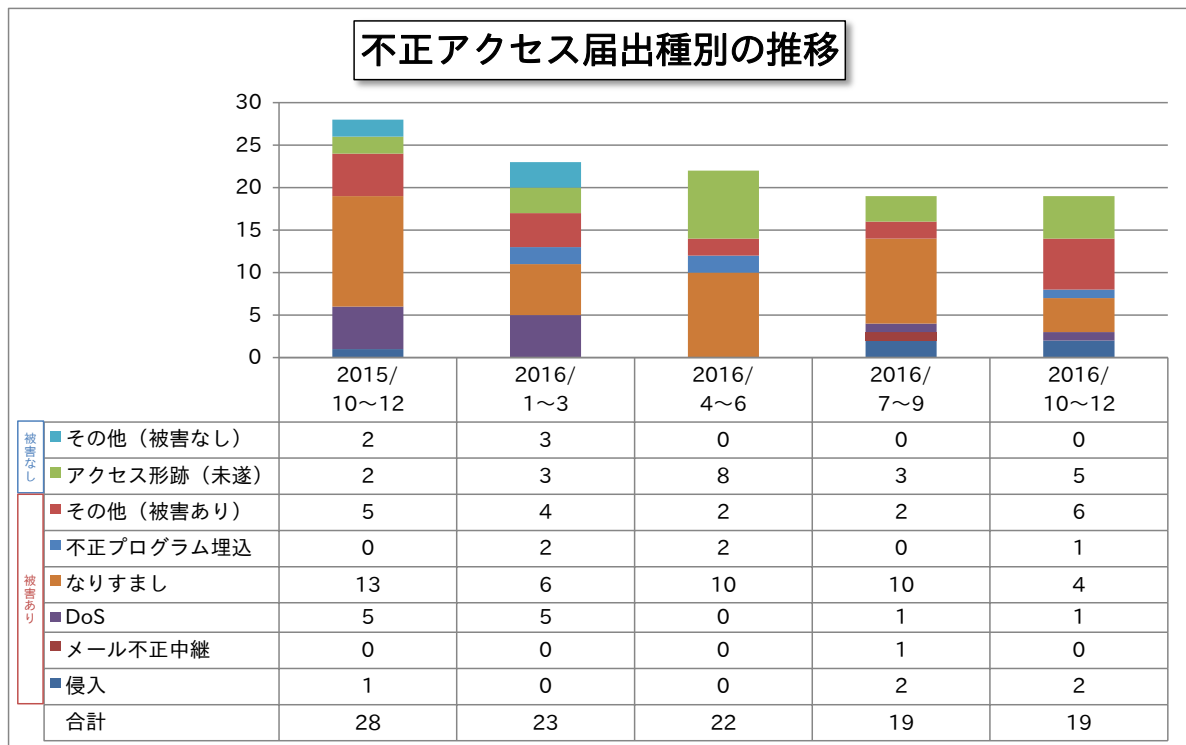


図 2-3 : 不正アクセス届出種別の推移

2-4. 不正アクセス被害原因

被害があった届出のうち、原因が判明しているものは「ID・パスワード管理不備」が4件、「設定不備」が3件等でした。

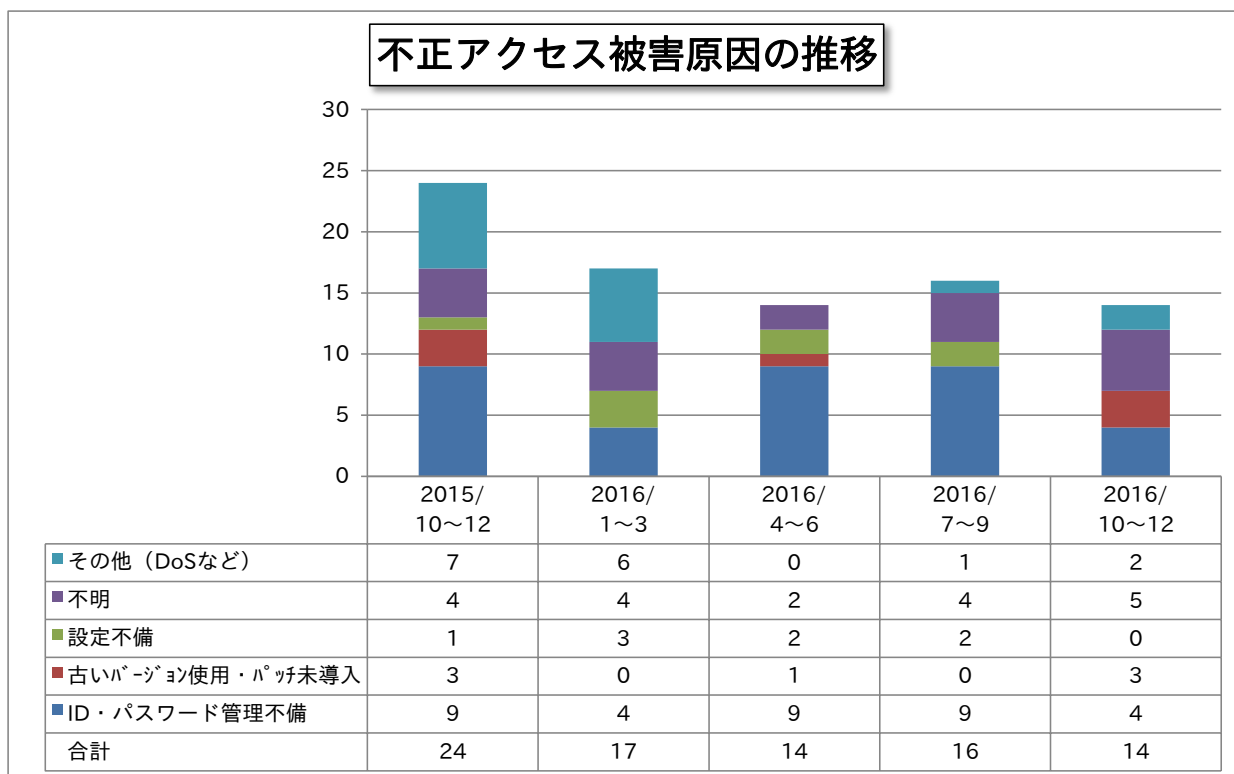


図 2-4：不正アクセス被害原因の推移

2-5. 不正アクセス届出者

届出者別の届出件数は、「一般法人ユーザ」が4件、「個人ユーザ」が10件、「教育・研究・公的機関」が5件でした。

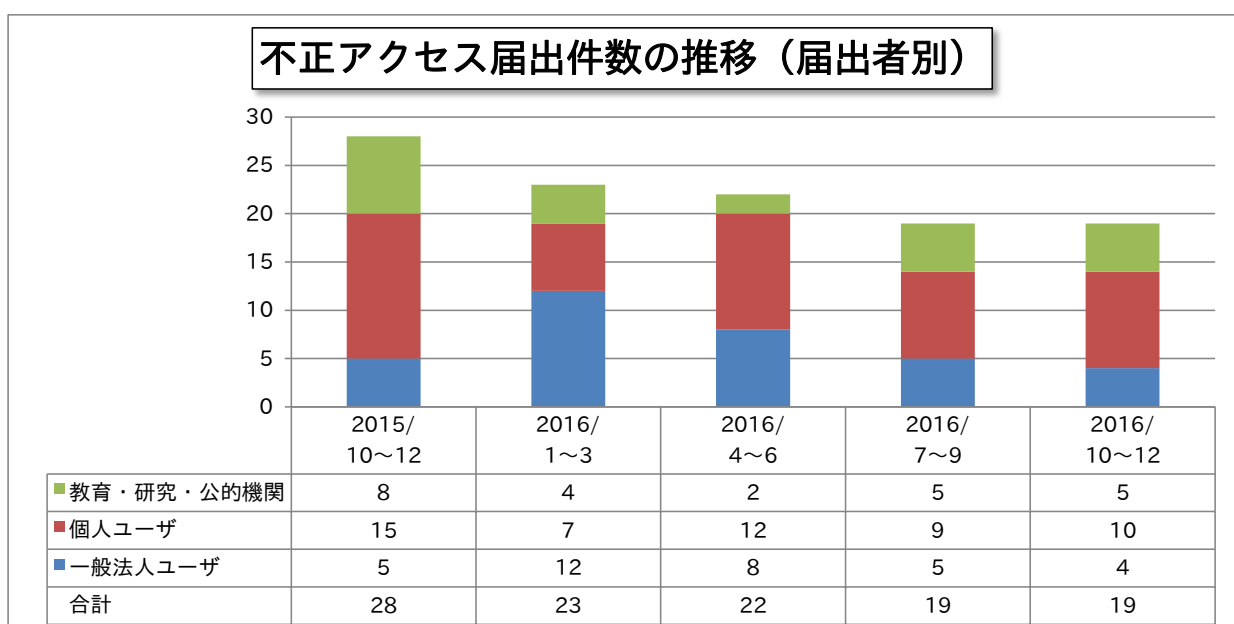


図 2-5：不正アクセス届出件数の推移（届出者別）

・コンピュータ不正アクセス被害の届出制度について

コンピュータ不正アクセス被害の届出制度は、経済産業省のコンピュータ不正アクセス対策基準に基づき、'96年8月にスタートした制度であり、同基準において、コンピュータ不正アクセスの被害を受けた者は、被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報をIPAに届け出ることとされています。

IPAでは、個別に届出者への対応を行っていますが、同時に受理した届出等を基に、コンピュータ不正アクセス対策を検討しています。また受理した届出は、届出者のプライバシーを侵害することがないように配慮した上で、被害等の状況を分析し、検討結果を定期的に公表しています。

○コンピュータ不正アクセス対策基準

平成8年8月8日（通商産業省告示 第362号）（制定）

平成9年9月24日（通商産業省告示 第534号）（改定）

平成12年12月28日（通商産業省告示 第950号）（最終改定）

○経済産業大臣が別に指定する者

平成16年1月5日（経済産業省告示 第3号）

3. 情報セキュリティ安心相談窓口の相談状況

3-1. 2016年総括

2016年に「情報セキュリティ安心相談窓口」に寄せられた相談件数は前年から約8.3%増の15,873件でした。

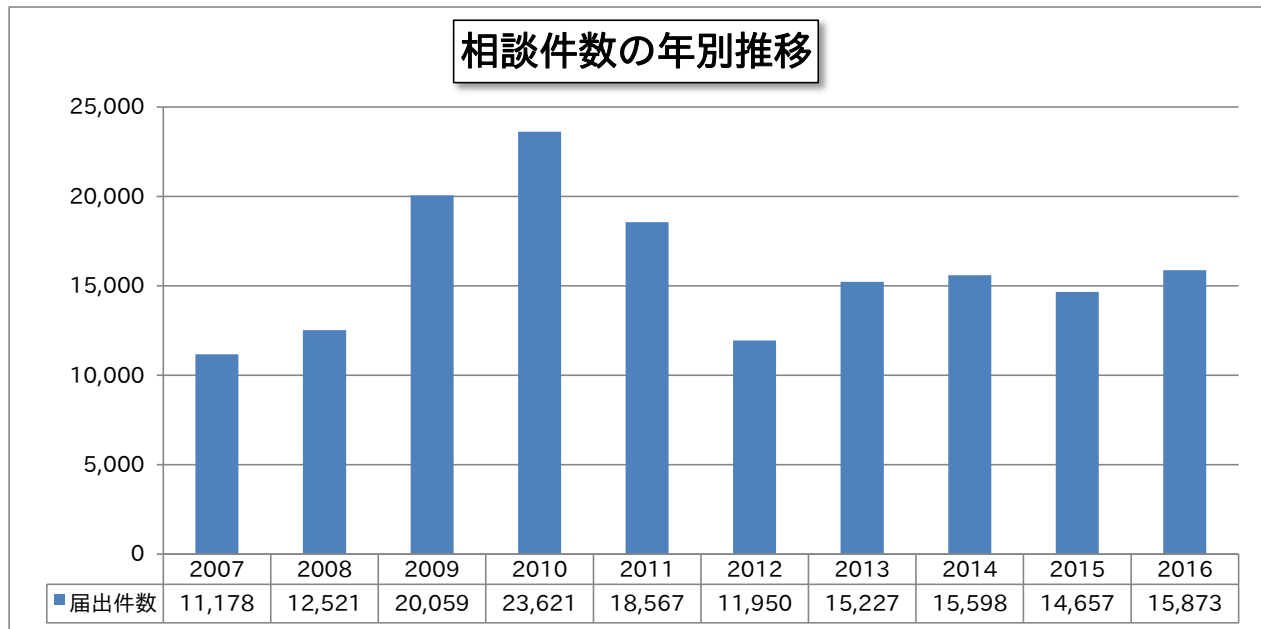


図 3-1 : 相談件数の年別推移

3-2. 相談件数

今四半期に「情報セキュリティ安心相談窓口」に寄せられた相談件数は前四半期から約 13.1%減の 3,795 件でした。そのうち、相談員による対応件数は 2,307 件でした。

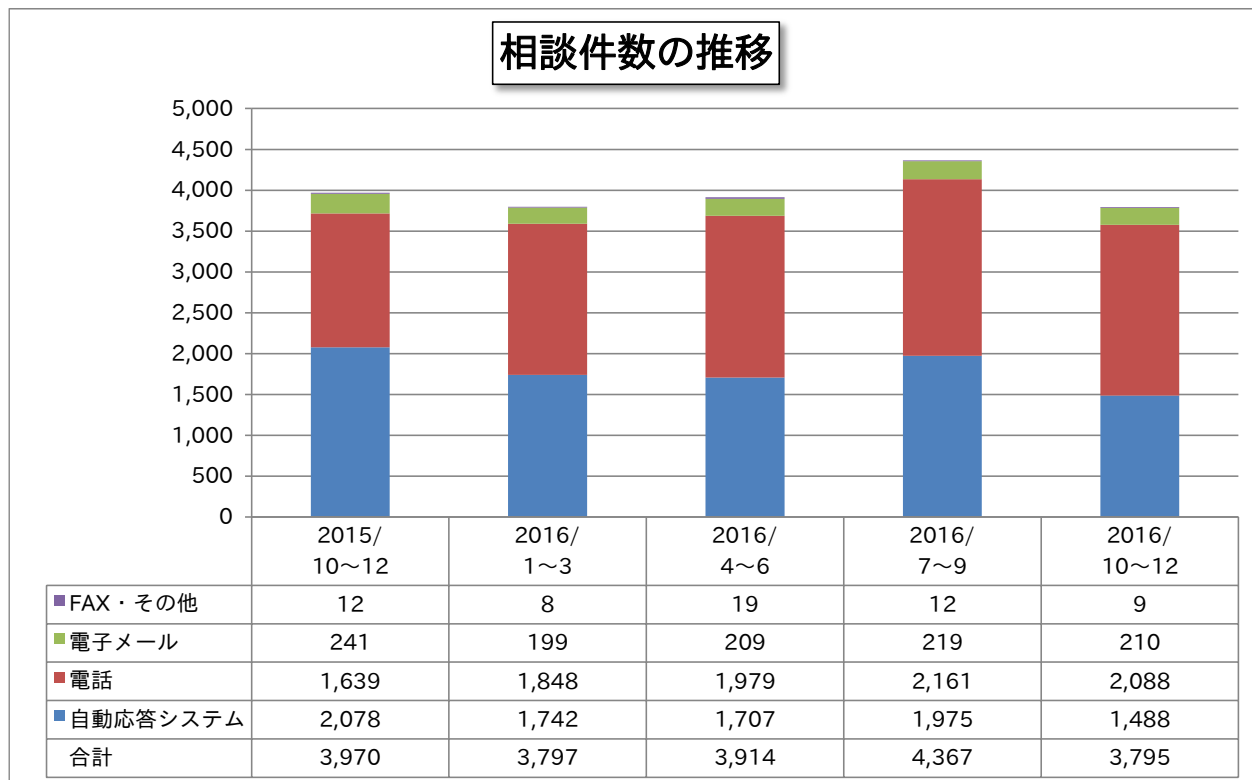


図 3-2：相談件数の推移

3-3. 主な手口における相談員の対応件数

(i) 「ウイルス検出の偽警告」に関する相談

ウイルスを検出したという偽警告で不安を煽り、電話をかけさせてサポート契約やソフトウェア購入に誘導する「ウイルス検出の偽警告」に関する相談が今四半期は 833 件寄せられました。

はじめて相談が寄せられた 2015 年 5 月以降、増加傾向にあります。

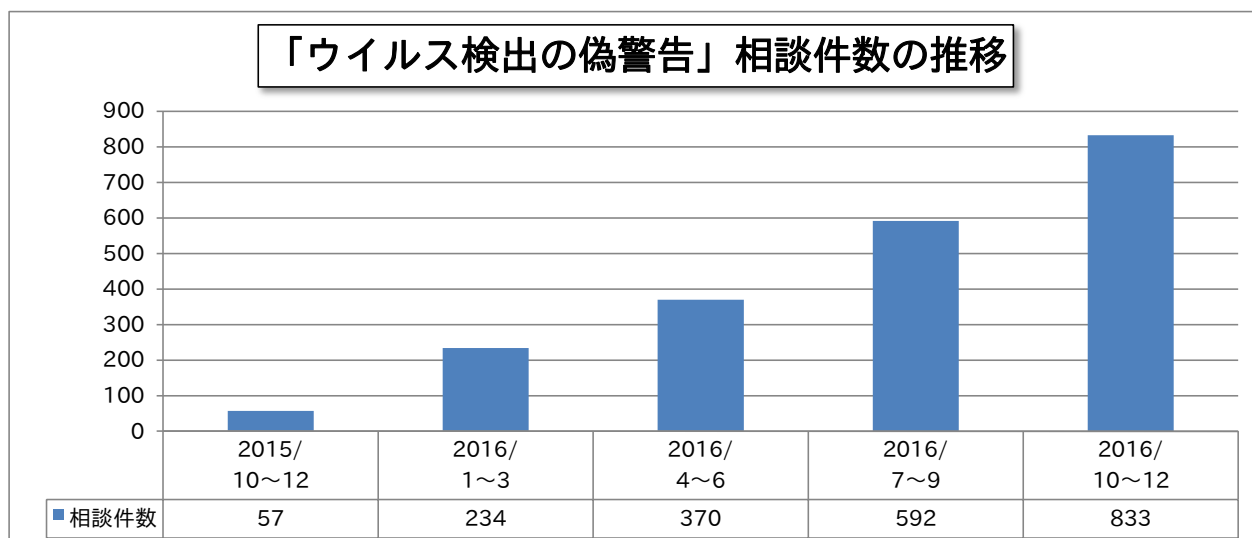


図 3-3：「ウイルス検出の偽警告」相談件数の推移

(ii) 「ワンクリック請求」に関する相談

今四半期は、パソコンとスマートフォンを合わせた「ワンクリック請求」に関する相談が前四半期から約 12.7%減の 487 件寄せられました。同相談のうち、スマートフォンを対象にした相談は前四半期から約 0.6%減の 158 件でした。

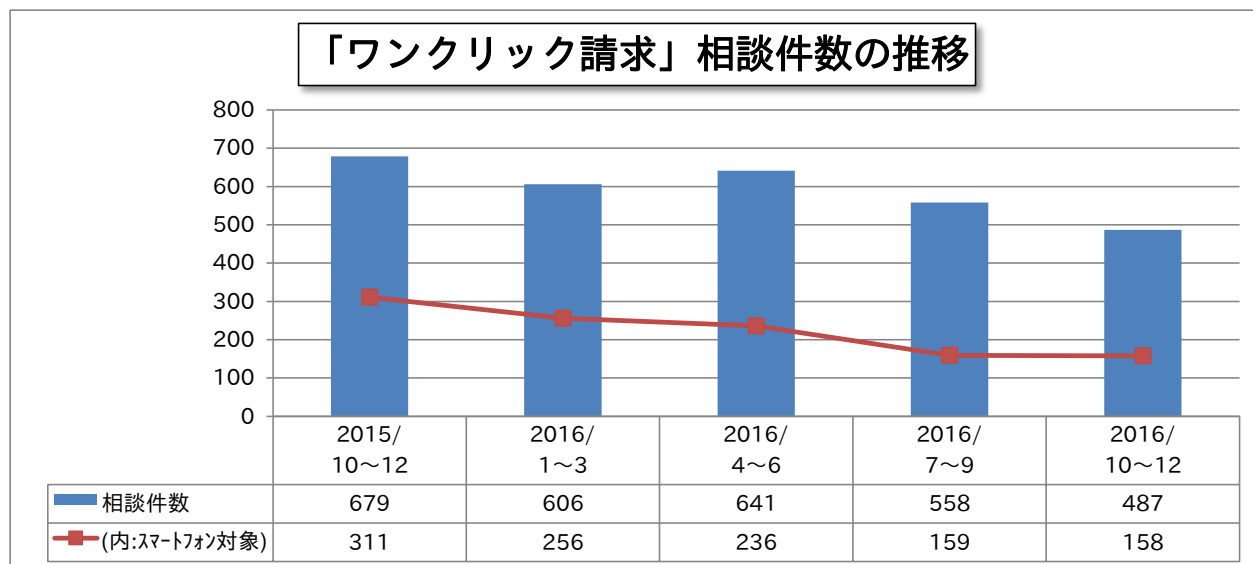


図 3-4 : 「ワンクリック請求」相談件数の推移